

ピュアな喘息FAQ 2

『咳 喘 息』

これも何回も繰り返し質問があるものです。

喘息ならば聞いたことがあるけれども、咳喘息なんて「聞いたことが無い」という人がいるようです。それは「どういう病気ですか」と尋ねると「咳だけの出る喘息」とわかったような、わからないような説明で終わりにされてしまいます。

説明をしだすと診察時間が長くなり、説明を書いた本や資料を手元に持っておられない先生が多いということにも起因しますが、説明をしだすと「うまく分かってもらえず」、かえって不信を招いたり、混乱を招く場合もあります。

仕方が無くなって、インターネットや本で患者さんが調べたり、色んな人に聞くと、色々な答えが返ってきて混乱する人も多いようです。

そこで、回答の決定版を以下に記すことにします。「喘息患者学入門」という本の中に既に書いてあるのですが。

咳喘息って何ですか？

慢性の咳だけを症状としながらも、喘息の亜系とされる病態を咳喘息と呼びます。小児にも成人にも見られます。通常は「三週間以上咳が続く」とされています。

咳喘息の基準としては

喘息と言われたことがない。

ゼーゼー、ヒューヒューという音が出たり、呼吸困難発作は伴わない。

聴診器を当てても喘息特有の音が聴かれず、胸部レントゲン写真上で過膨張の所見も見られない。

メサコリンやアセチルコリン（気道過敏性を調べる薬剤）で調べると気道過敏性や気道反応性の亢進がある。

以上の四つの基準が挙げられています。痰の中に好酸球が多く見られるとか、ピークフロー値の日内変動が伴うこともあります。

アレルギー性鼻炎、後鼻漏、胃食道逆流、感冒やインフルエンザ、気管支炎、薬物による咳があった場合でも気道過敏性を認めたり、咳が続く場合がありますので、これらの疾患を除外してはじめて咳喘息という診断がつかます。

喘息の場合と同じように、気管支拡張剤の内服や吸入がこの咳に効くというところが咳喘息と呼ばれるゆえんです。ステロイド吸入剤も有効であり、咳喘息も早期に治療をおこなった方がよいとされています。気管支喘息発症の前段階であることも多く、移行が見られるからです。移行しないで治ってしまう人もいます。

咳喘息とグーグルや Yahoo で打ち込んで、検索をしていただければたくさんの回答がでてきます。グーグルで私たちの HP の紹介の下に、耳鼻科の方々の咳喘息についての見解が、掲載されております。

しかし咳喘息というのは、珍しい病気ではなくて、呼吸器関係の患者さんや一般の方でも良く知られている病気なのです。私たちの HP に、喘息 FAQ というのがあります。そこには、これまで何回も同じ質問が寄せられ、その一つ一つに回答が記載されております。そこをご覧になって見て下さい。
(HP 『喘息FAQ』を検索参照して下さい)

ある病院の先生のところでは、一生治らない患者さんだけかもしれませんが、私たちの指導を受ける患者さんの中では努力される方が多いからでしょうが、半分以上は治ります。残りの25%ぐらいが気管支喘息に移行します。あとの25%が風邪を引いた時やインフルエンザにかかった時、その他時には再発することがあります。

